令和７年度

我が校の強み弱み分析・評価シート

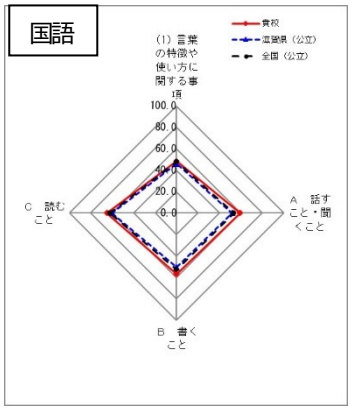
令和７年10月31日
大津市立粟津中学校

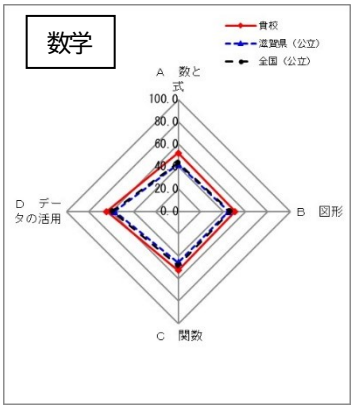
粟津中学校３年生の全国学力・学習状況調査の結果では、全国平均と比較して、国語の平均正答率で約４ポイント、数学の平均正答率で約６ポイント上回りました。また今年度からＩＲＴを用いたＣＢＴで実施された理科でも、平均スコアで２７ポイント上回りました。質問紙調査の「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という設問に80％を超える生徒が肯定的に回答したり、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という設問にも約90％の生徒が肯定的な回答をしたりしていることもあわせると、日々の授業等で協働的な学びが実現できていて、家庭学習にも取り組んでいる成果であろうと考えます。一方で、国語では「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること」、「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」等に課題が見られました。数学では、「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明すること」、「ある事象が成り立つことを構想に基づいて証明すること」等に課題がみられました。理科では、「考察をより確かなものにするために知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される結果を適切に説明すること」等に課題が見られました。また、どの教科についても、記述式の問題への無解答率が他の形式の問題より高い傾向にあり、問われている事柄を理解して自分の考え等を記述することが苦手な傾向があるようです。

また、普段の家庭学習について、普段（月曜日から金曜日）１日当たり「２時間以上勉強する」生徒が３３．８％で、全国平均を３ポイント上回っています。これからも家庭での時間の使い方を工夫して、自分で計画的に勉強できるようにしてください。

Ⅰ　本校の学力・学習状況　〔R7「全国学力・学習状況調査」の結果より〕　○印＝強み　●印＝弱み

【学力調査】





《国語》○全体的に全国平均より正答率が高く、特に「話すこと・聞くこと」に関する問題では、６．２ポイント上回っている。

●考えの根拠を明確にして書く設問や、自分の考えを分かりやすく伝わるように表現を工夫する設問等、記述式の問題は、正答率が低い傾向にある。

《数学》○全体的に正答率は全国平均を上回っており、特に「数と式」の領域の問題では、全国平均より８．７ポイント上回っている。

●事象を数学的に解釈し、説明する記述式の問題は正答率が低い傾向にある。

《理科》○スコアの分布が全体的に全国よりも高いところにあり、平均ＩＲＴスコアは全国平均より２７ポイント高い。

●既習の知識を活用して事象を分析して解釈する問題や実験を計画したり実験の結果を見通したりする問題は、正答率が低い。

【学習状況調査】

《国語》○「国語の授業の内容はよく分かりますか」に肯定的な回答をした生徒は、県を１１．５ポイント（全国を９．３ポイント）上回っている。特に最も肯定的に回答した生徒は、県を１８．２ポイント（全国を１５ポイント）上回っている。

●「国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか」に肯定的な回答をした生徒は、県は上回っているが、全国を３．７ポイント下回っている。

《数学》○「数学の授業の内容はよく分かりますか」に肯定的な回答をした生徒は、県を２ポイント（全国とは０．２ポイント差でほぼ同じ）上回っている。特に最も肯定的に回答した生徒は、県を５．４ポイント（全国を３．２ポイント）上回っている。

●「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」に肯定的な回答をした生徒は県を８．１ポイント（全国を１６．５ポイント）下回っている。

《理科》○「理科の授業の内容はよく分かりますか」に肯定的な回答をした生徒は、県を１２．３ポイント（全国を９ポイント）上回っている。特に最も肯定的に回答した生徒は、県を１６ポイント（全国を１２．２ポイント）上回っている。

●「理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか」に肯定的な回答をした生徒は県を１０．９ポイント（全国を５ポイント）上回っているものの、その割合は約５５％程度にとどまっている。

粟津中キャラクター
「あわ松くん」

Ⅱ　教科指導における改善策

（国語）
・文章を読むときに、文章の構成や内容の展開について、根拠を明確にして考える活動の充実を図る。
・タブレットも活用しながら、積極的な意見の発表や交流を促す。
・書く活動を取り入れ、相手や目的を明確にして自分の考えを簡潔にまとめて書く学習の充実を図る。その際に、意見と根拠の関係に着目して資料を整理するようにする。また、読み手を意識した推敲の時間も充実させる。

（数学）
・事象を数学的な表現を用いて説明する活動を充実させる。
・見通しをもって図形の証明に取り組んだり、関数を解釈して問題解決の方法を書いて説明したりする活動に重点を置くようにする。
・生徒が自らの学習を調整し、幅広い課題に取り組み、主体的に学ぶ習慣をつけることができるように、ＩＣＴを活用し復習問題に取り組む時間を設ける。

（理科）
・自然事象から問題を見いだす時間を十分にとり、そこからできる課題を科学的に探究する活動を充実させる。
・実験の方法を立案する際には、既習事項を活用して条件制御する指導を充実させる。また、結果を見通して実験を行うようにすることで、科学的な探究の見通しをもたせるようにする。

Ⅲ　学校教育目標の達成状況　〔R7「全国学力・学習状況調査」の結果より〕
学校教育目標　＜やさしく　かしこく　たくましく＞　に関連した質問紙項目と達成状況

＜　やさしく　＞

〇人が困っているときは、進んで助けていますか。
→肯定的な回答をした生徒が８０％を超えている。
（昨年度は91.5％）

＜　たくましく　＞

〇人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
→肯定的な回答をした生徒が９５％を越えている。
（昨年度は95.4％）

豊かな心を持ち、「命」や「人」を大切にする生徒

粟津中の生徒には、こんな良いところがあります！

やればできる」を合い言葉に粘り強く切磋琢磨する生徒

＜　かしこく　＞

〇学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
→肯定的な回答をした生徒が８０％を超えている。

〇授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか
→８９．６％の生徒が肯定的に回答。

〇あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか
→あてはまると回答をした生徒が８０％を超えている。

学ぶ意欲をもち、学んだことを活用しようとする生徒

Ⅳ　主体的・対話的で深い学びを支える学習に向けた３つの取組

(1)子どもたちが主体の授業づくり

◇基礎学力の定着
・授業の中で「できた」・「わかった」と思える問題・場面を設定し、学習意欲を高める。
・学習課題を工夫して、すべての生徒が意見をもてるようにする。
・定期テスト前や長期休業中に補充・質問教室を開き、学習のつまずきに対する支援を実施し、基礎・基本の定着を図る。

◇タブレットを用いた学習活動
・書く活動の充実を図る。

粟津中キャラクター
「びわづちゃん」

(2)学びを支え合う集団づくり

◇教育のユニバーサルデザイン
・すべての生徒が授業の進行や説明が分かるように板書等を工夫する。
・学び合いの時間を適宜確保し、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、「主体的・対話的」、「共働的な学び」の実現を図る。

◇ＩＣＴ機器の活用
・自分の考えを発表しやすくしたり、他生徒の意見・考えをしったりして交流する。

◇支持的風土の醸成で、自尊感情の高まる学級づくりの推進。

(3)協働して取り組む学校づくり

◇組織的なＯＪＴの推進
・異年齢や他教科の教員との積極的な交流を図り、ミドルリーダーを核として若手教員の力量を高めるとともに、ベテラン教員の豊富な経験を生かし全ての教員の授業力向上を図る。

◇教材・教具の共有
・ユニバーサルデザインの視点をもって授業参観しあう。
・指導上有効であった教材・教具・指導法について、データ等を集めて共有する。